

学位プログラム DP レビュー

2025 年度 社会福祉学科

1. 現状の説明

①授業実施評価レポート

成績評価の4つの視点（透明性・客観性・妥当性・公平性）が不足する科目について、ほとんどの学生が「なかった」と回答しており、全体的には良好であった。その一方、全ての項目についてはほぼ全学年で数名ずつ「1～2科目あった」と回答があり、また4年生1～2名からは「いくつもあった」と回答があった。以上を踏まえ、教務・共通教育部会からは、成績評価の方法についてシラバスへの記載やオリエンテーション時の説明のみならず、授業時間中においても再度説明や確認をするなどの工夫の必要性を指摘された。また、透明性・客観性・妥当性・公平性に関する指摘の数が昨年度より増えていることから、成績評価が適切に行えているかを確認することが求められた。全体として成績評価に関するアンケート結果は良好であるため、これまでの対応に大きな問題はないことを確認した。その上で、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認について継続的に取り組むこととした。

成績分布については、成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目が1科目あった。成績評価についての確認は、科目開設学科（公共社会学科）の担当者が行った。なお「不可」が多い科目はなかった。受講者数については、5名以下の科目が4科目（「介護技術演習」、「学校ソーシャルワーク演習」、「学校ソーシャルワーク実習指導」、「学校ソーシャルワーク実習」）あった。学生の履修状況や科目の必要性等について検討し、現在のカリキュラムに問題がないことを確認した。

②DP アンケート

全項目の平均値が4.54であり、4年間での学修到達度は十分であると考えられる。社会福祉の原理や制度・政策及びソーシャルワークや隣接諸科学に関する専門知識の理解、卒業後の専門性の向上に対する意欲は高い到達度であった。一方、社会人スキルや情報リテラシーの習得、「卒業論文」における課題の主体的な設定及び成果の論理的な表現に関しては全体と比較すると低めの到達度であった。講義科目や実習科目では引き続き丁寧な指導を行うとともに、「卒業論文」における指導方法の工夫には検討の余地がある。また、社会人スキルや情報リテラシーなどリベラルアーツに関わる科目での学びと専門教育科目での学びを結びつけるような教育については、今後の課題である。

③進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生51名のうち就職希望者49名の就職率は98%であり、進路状況は良好である。就職先としては、社会福祉施設等23名、病院・医療施設5名、官公庁等11名（うち福祉職7名）、民間企業8名、その他の就職1名となっており、実践力のあるソーシャルワーカー養成や高度福祉社会を担う人材の輩出という社会福祉学科の設置目的と一致した進路を選択している。なお、進学希望者1名は本学大学院に進学している。

資格試験については、卒業生（現役）における合格率が社会福祉士79.2%（全国平均56.3%）、精神保健福祉士100%（全国平均70.7%）であり、全国平均を大きく上回る良好な結果となった。

留年・退学については、退学が3名、留年が1名であった。いずれも昨年度より減少している。

2. 2024年度対応プランの結果

成績評価・成績分布については、学生への成績評価方法の周知をこれまでより丁寧に行うことに取り組んだ。成績評価アンケートの結果から、十分な成果をあげているといえる。

ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）における指導の工夫については、卒業論文に関する項目が5ポイント中の4.33ポイントとなっており、他の項目と比較してみると工夫の余地がまだあるといえる。

進路・資格試験については、就職率98%であることや、大半の学生が国家試験に合格しており全国平均合格率と比較しても良好な結果が得られていることから、社会福祉学科における専門教育やキャリア支援の成果がみられる。

留年・退学については、昨年度から減少した。しかし、その多くが心身の不調や学修意欲の低下などを背景として退学や留年となっていることから、引き続き学生に対して丁寧な支援を行うことが重要であると認識している。

3. 今回の課題と対応プラン

成績評価・成績分布について、特に改善を急ぐ課題はなかったが、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認に引き続き取り組みたい。

DP アンケートからみる 4 年間の学修到達度に関しては、特に大きな問題は見られないが、学生がより適切に学修を進められるよう、卒業論文において先行研究等の収集と分析、研究課題の主体的な設定、研究成果の論理的な表現に関する指導の工夫を検討していくことが重要と考える。

進路・資格試験については良好な結果が得られていることから、進路相談や学修支援に関するこれまでの取り組みを継続していくことが重要である。また、留年・退学について、数はそれほど多くないものの毎年数名が留年・退学となっているため、履修指導や学修支援、学生相談を引き続き実施していきたい。

4. DP 達成状況のまとめ

成績評価・成績分布については、良好な状態が維持できている。DP アンケートも全体として高い値の結果が得られ、十分な学修到達度であることが確認できた。進路・資格試験・留年・退学の状況についても、全体として良好な結果であり、大きな問題は見られない。以上の結果から、本学位プログラムの実施状況は良好であるといえる。

添付資料：①「DP アンケート」

②「進路、資格試験、留年、退学状況（資料はこちらをクリック）」

③「授業実施評価レポート」

2025年6月18日

社会福祉学科 殿

教務・共通教育部会

社会福祉学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

1.ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

	質問項目	平均値
1	入学時に比べて、今後の社会人生活に役立つ知識やスキルを身につけることができた。	4.37
2	入学時に比べて、社会の諸問題についての必要な情報を収集、分析、表現する力を身につけることができた。	4.30
3	入学時に比べて、異なる文化や価値観を尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけることができた。	4.52
4	入学時に比べて、社会福祉の原点となる人間の自由と尊厳、人権、社会正義に関する知識が増えた。	4.63
5	入学時に比べて、社会学や心理学などの人間と社会に関する隣接諸科学の知識が増えた。	4.59
6	入学時に比べて、社会福祉学科専門科目の講義をとおして、社会保障・社会福祉の制度・政策およびソーシャルワークに関する専門知識を理解することができた。	4.78
7	入学時に比べて、社会福祉学科専門科目を受講したことにより、社会福祉およびそれに関連する諸問題を文献や資料などの根拠に基づいて考察できるようになった。	4.52
8	入学時に比べて、ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）をとおして社会福祉に関する諸問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し分析できるようになった。	4.52
9	入学時に比べて、ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）をとおして、社会福祉およびそれに関連する問題に対して自分なりの問を立て、考えを整理し、発表することに意欲的に取り組めた。	4.59
10	入学時に比べて、「卒業論文」をとおして自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探求し、その成果を論理的に表現することができた。	4.33
11	入学時に比べて、各実習（相談援助実習、精神保健福祉援助実習、学校ソーシャルワーク実習）に対して、社会福祉およびそれに関連する諸問題に関心を持ちながら、意欲的な態度で取り組めた。	4.63
12	入学時に比べて、各実習（相談援助実習、精神保健福祉援助実習、学校ソーシャルワーク実習）を通して、基本的なソーシャルワーク・スキルを修得できた。	4.59
13	入学時に比べて、卒業後もソーシャルワークの専門性を継続的に高めていこうと思っている。	4.67
	全項目平均	4.54

自由回答

- ・遠隔で行う学業のクオリティの担保。
- ・授業の中で、話し合う機会が多いのがいいと思います。
- ・グループワークがある授業が多かった部分が良かった。
- ・実践と座学を複合的に学べてよかった。
- ・グループワークが多くあったため、自分では考えつかなかった意見をしれること。
- ・プレ実習があったので、実習の雰囲気を感じることができて良かったです。
- ・専門的な学習が濃密にできて、全面的によかったと思う。
- ・全体を通して、多角的に考えることができるようになりました。
- ・試験等で、授業で学んだ知識を再確認することができる点はいいと感じる。
- ・学生の自主的行動意欲の向上につながるようなご指導をおねがいしたい。
- ・現場経験や豊富な知識を持った先生と、少人数という環境において関わることができる点。
- ・実習におけるサポートがしっかりしていました。
- ・グループワークの活用が大変有意義だと思っています。
- ・様々な社会問題に対して理解を深め、授業を通してソーシャルワークの必要性、重要性、発展の歴史を学び、実習を通してその実際や自分がソーシャルワーカーとして働いていく上で貴重な経験を行うことができ、この大学に入学してまなぶことができて良かった。

2.結果について

全項目の平均値が 4.54 であり、4 年間での学修到達度は十分であると考えられます。社会福祉の原点や制度・政策及びソーシャルワークや隣接諸科学に関する専門知識の理解、卒業後の専門性の向上に対する意欲は高い到達度でした。一方、社会人スキルや情報リテラシーの習得、「卒業論文」における課題の主体的な設定及び成果の論理的な表現に関しては全体と比較して低めの到達度でした。講義科目や実習科目では引き続き丁寧な指導を行うとともに、「卒業論文」における指導方法の工夫には検討の余地があると思われま。また、社会人スキルや情報リテラシーなどリベラルアーツに関わる科目での学びと専門教育科目での学びを結びつけるような教育については、今後の課題であると考えられます。

授業実施評価レポート

2025 年度 人間社会学部社会福祉コース

1. 2024 年度の状況

①成績評価アンケート

成績評価の 4 つの視点（透明性・客観性・妥当性・公平性）が不足する科目について、ほとんどの学生が「なかった」と回答しており、全体的には良好であった。その一方、全ての項目についてほぼ全学年で数名ずつ「1～2科目あった」と回答があり、また4年生1～2名からは「いくつもあった」と回答があった。以上を踏まえ、教務・共通教育部会からは、成績評価の方法についてシラバスへの記載やオリエンテーション時の説明のみならず、授業時間中においても再度説明や確認をするなどの工夫の必要性を指摘された。また、透明性・客観性・妥当性・公平性に関する指摘の数が昨年度より増えていることから、成績評価が適切に行えているかを確認することが求められた。

上記についてコース会議で検討し、全体として成績評価に関するアンケート結果は良好であるため、これまでの対応に大きな問題はないことを確認した。その上で、学生への成績評価方法の周知や科目ごとの成績評価の方法・基準の確認について継続的に取り組むこととした。

②成績分布及び受講者数

成績分布については、成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目が1科目あった。成績評価についての確認は、科目開設学科（公共社会学科）の担当者が行った。なお「不可」が多い科目はなかった。

受講者数については、5名以下の科目が4科目（「介護技術演習」、「学校ソーシャルワーク演習」、「学校ソーシャルワーク実習指導」、「学校ソーシャルワーク実習」）あった。学生の履修状況や科目の必要性等についてコース会議で検討し、現在のカリキュラムに問題がないことを確認した。

2. 2024年度レポート対応プランの結果

2024年度は以下の2点に取り組んだ。

- ①成績評価の方法・内容・基準について、シラバスへの記載やオリエンテーション時の説明のみならず、授業時間中においても再度説明や確認などの工夫を行う。
- ②成績評価の方法や基準に加えて授業の内容や方法を継続的に点検し、適切な成績分布を維持するよう努める。

まず、①については成績評価の基準や方法を各科目の初回授業等で説明した。2023年度に引き続き丁寧な説明を実施したことから、2024年度も成績評価の基準に関する学生からの問題指摘は少なく、一定の成果がみられたと考える。次に、②について、2023年度の成績分布において成績Sが3分の2を超えていた2科目は、科目担当者が授業内容や評価方法・基準等を見直したことで、より適切な成績評価となった。その一方、2024年度の成績評価アンケートでは透明性・客観性・妥当性・公平性に関する指摘の数が2023年度より増えていることから、成績評価が適切に行えているかを継続的に検討することとした。

3. 対応プラン

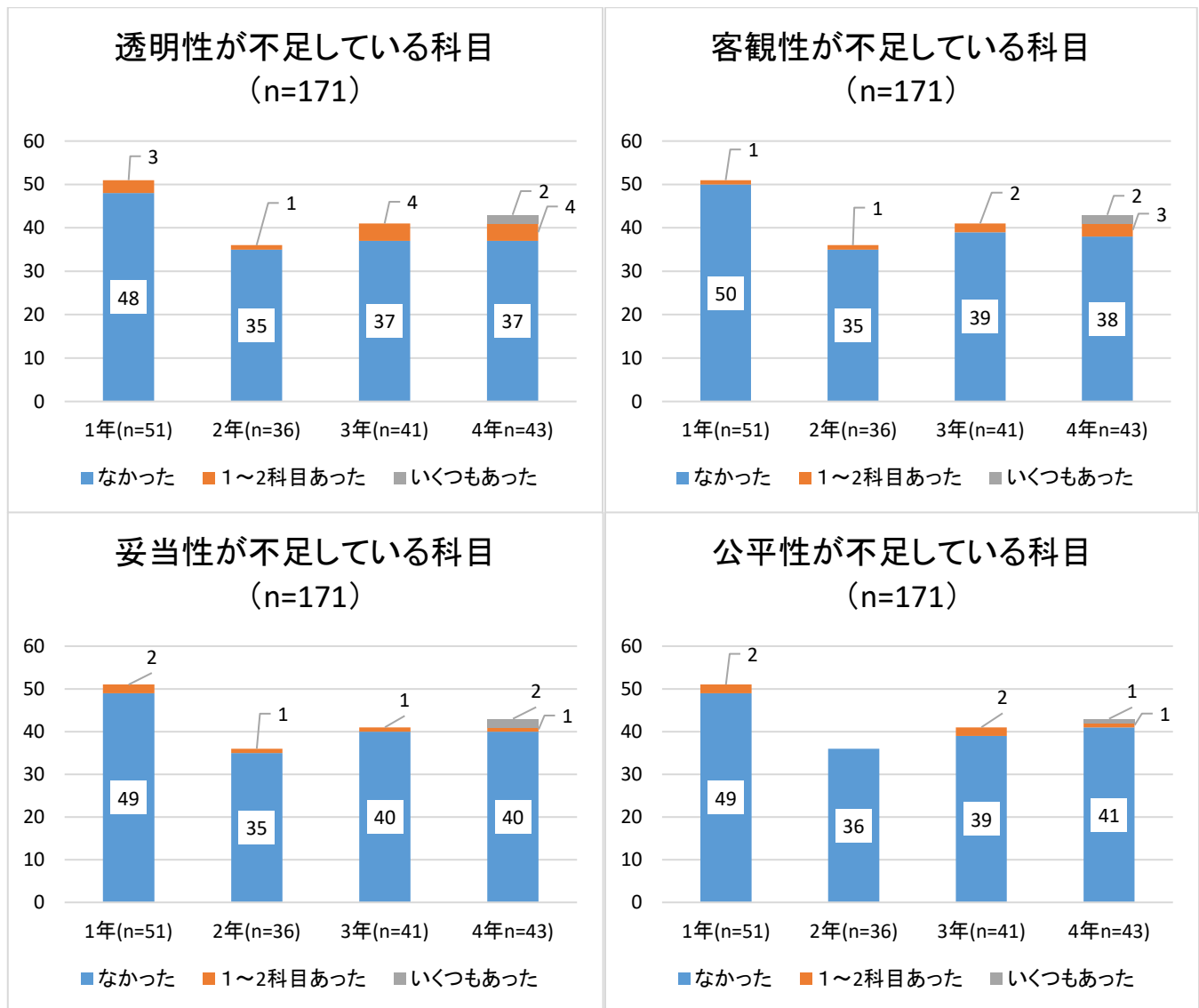
- ①成績評価の方法・内容・基準について、シラバスへの記載やオリエンテーション時の説明のみならず、授業時間中においても再度説明や確認などの工夫を行う。
- ②成績評価の方法や基準に加えて授業の内容や方法を継続的に点検し、適切な成績評価を実施するよう努める。

添付資料

- ・社会福祉コース成績評価アンケート結果報告
- ・社会福祉学科専門教育科目 受講者数及び成績結果状況報告
- ・社会福祉コースカリキュラムツリー
- ・カリキュラムマップ

社会福祉コース成績評価アンケート結果報告

1.成績評価アンケートの結果



2.結果について

- 各項目の「なかった」の割合は、透明性：91.8%、客観性：94.7%、妥当性：95.9%、公平性：96.5%であり、概ね良好な結果です。全ての項目で昨年度（2023（令和5）年度）の数値を下回っています（昨年度実績：透明性：96.4%、客観性：95.3%、妥当性：97.9%、公平性：96.9%）。全ての項目において4年生1～2名から「いくつもあった」と回答がありました。
- 全体として成績評価の透明性・客観性・妥当性・公平性は確保されていると考えられますが、全ての学年で各項目に数名ずつ「1～2科目あった」と回答があることから、成績評価の方法についてシラバスへの記載やオリエンテーション時の説明のみならず、授業時間中においても再度説明や確認をするなどの工夫が必要と考えられます。また、上記に留意して成績評価を適切に実施することを再度確認してください。

社会福祉学科専門教育科目および関連科目 受講者数及び成績結果状況報告

2024年度の社会福祉学科専門教育科目および関連科目の各科目の受講者数及び成績結果をお知らせします。

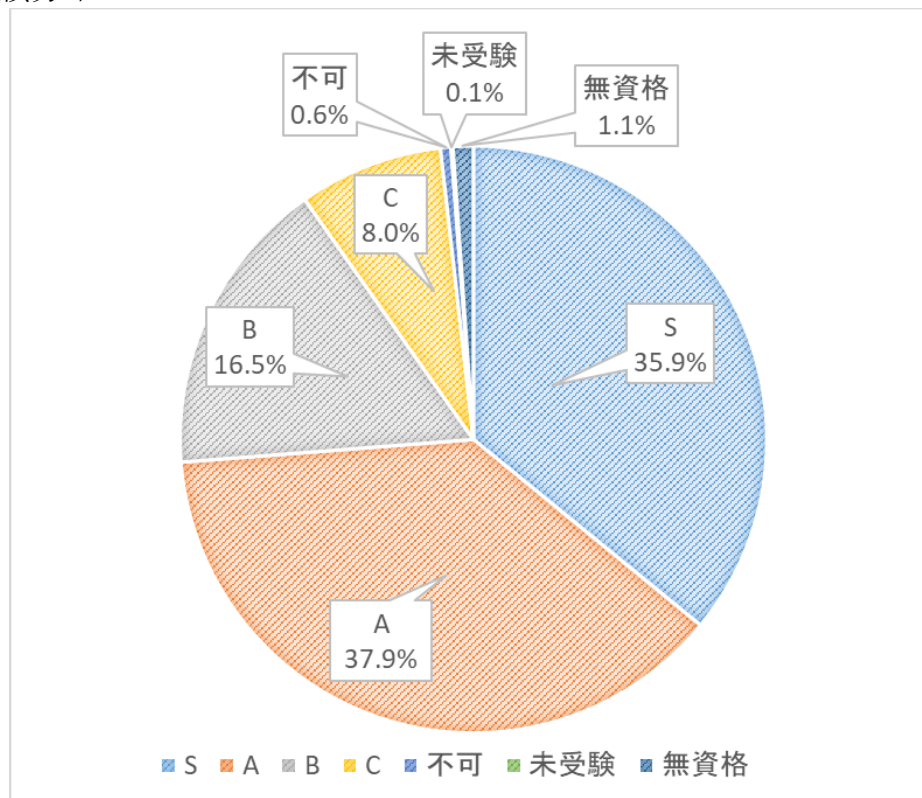
結果について

1. 受講者数が5名以下の科目は、「介護技術演習」（5名）、「学校ソーシャルワーク演習」（4名）、「学校ソーシャルワーク実習指導」（4名）、「学校ソーシャルワーク実習」（4名）でした。以上の科目の履修状況について学科で検討してください。
2. 成績に「不可」が多い科目はありませんでした。
3. 成績Sが受講者の3分の2を超えていた科目は「生徒指導論 B」（13名/13名、100%）の1科目でした（演習・実習科目を除く）。評価方法や成績評価方針について確認をしてください。

※ 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。また強化あるいは変更したほうが良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

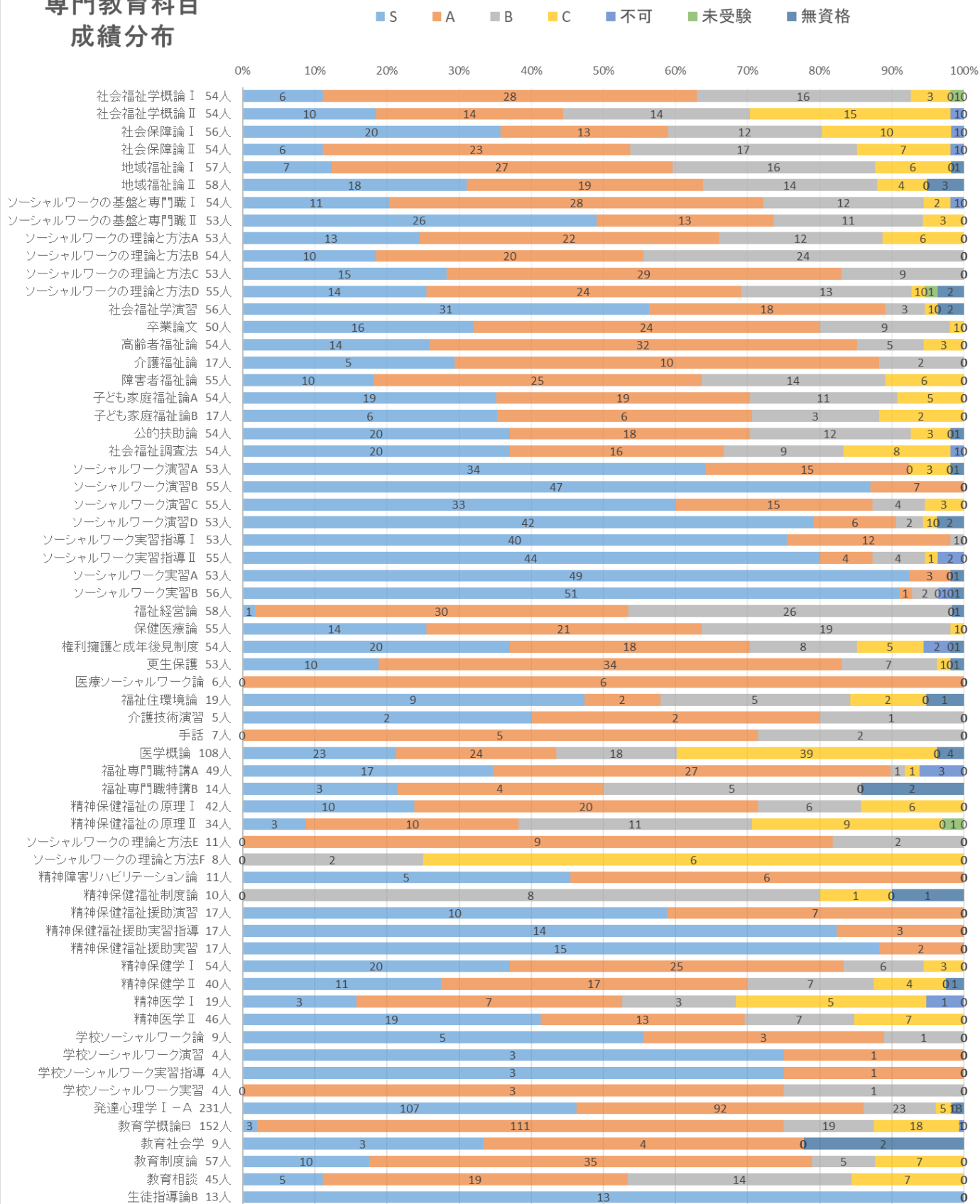
(添付資料)

(1) 学科別成績分布



(2) 各授業の成績分布

社会福祉学科
専門教育科目
成績分布



社会福祉コース カリキュラムツリー

2024年度入学生版

領域	知識・技能		思考・判断・表現	主体性・多様性・協働性
	DP1	DP2	DP3	DP4
ポリシー	□現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 □社会福祉、ソーシャルワークおよび隣接諸科学に関する専門知識を有している。	□現代において求められる汎用的技能を身につけている。 □専門的な価値と知識に基づくソーシャルワークの技能を身につけている。 □社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。	□現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 □社会福祉に関する問題を根拠に基づいて論理的に考察し、自分なりの結論を導き出すことができる。 □社会福祉に関する問題を探求し、その成果を適切に表現することができる。	□異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 □社会福祉に関する問題について主体的に検討し、課題解決に取り組む力を身につけている。 □社会福祉に関わる人々の多様性を尊重し、実際に多様な人々と協働することができる。



4年次	卒業論文	福祉専門職特講B	▲精神保健福祉援助演習 ▲精神保健福祉援助実習指導 ▲精神保健福祉援助実習	◆学校ソーシャルワーク演習 ◆学校ソーシャルワーク実習指導 ◆学校ソーシャルワーク実習 ◆教育相談 ◆生徒指導論B	
3年次	●▲地域福祉論Ⅱ ●ソーシャルワークの理論と方法D 社会福祉学演習	●福祉経営論 ●▲更生保護 ●▲権利擁護と成年後見制度 ●ソーシャルワーク演習C ●ソーシャルワーク演習D ●ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ●ソーシャルワーク実習B 子ども家庭福祉論B 医療ソーシャルワーク論 介護技術演習 福祉専門職特講A	▲ソーシャルワークの理論と方法E ▲ソーシャルワークの理論と方法F ▲精神障害リハビリテーション論 ▲精神保健福祉制度論 ▲精神保健福祉援助演習 ▲精神保健福祉援助実習指導 ▲精神保健福祉援助実習 ▲精神医学Ⅰ ▲精神医学Ⅱ	◆学校ソーシャルワーク論 ◆学校ソーシャルワーク演習 ◆学校ソーシャルワーク実習指導 ◆教育社会学 ◆教育制度論	地方自治論 福祉社会学 環境と災害の社会学 NPO論 老年心理学 *データ処理とデータ解析Ⅰ *データ処理とデータ解析Ⅱ *プログラミング演習 *情報検索システム論 *個人情報法制
2年次	●▲地域福祉論Ⅰ ●▲ソーシャルワークの理論と方法A ●▲ソーシャルワークの理論と方法B ●ソーシャルワークの理論と方法C	●高齢者福祉論 ●▲障害者福祉論 ●子ども家庭福祉論A ●公的扶助論 ●▲社会福祉調査法 ●ソーシャルワーク演習B ●ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ●ソーシャルワーク実習A ●保健医療論 介護福祉論 福祉住環境論	▲精神保健福祉の原理Ⅰ ▲精神保健福祉の原理Ⅱ ▲◆精神保健学Ⅰ ▲精神保健学Ⅱ	◆発達心理学Ⅰ-A ◆教育学概論B	倫理学 暮らしの経済学 コミュニティ論 社会病理学 *情報数学 *Webデザイン演習 *プログラミング概論 *データベース論 *情報ネットワーク論 *問題解決演習
1年次	●▲社会福祉学概論Ⅰ ●▲社会福祉学概論Ⅱ ●▲社会保障論Ⅰ ●▲社会保障論Ⅱ ●▲ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ●ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	●▲医学概論 ●▲ソーシャルワーク演習A 手話			地域社会学 発達心理学Ⅱ 社会心理学 人格心理学 対人心理学
標準履修年次	基幹科目	社会福祉専門科目	精神保健福祉専門科目	学校ソーシャルワーク専門科目	関連科目
社会福祉学科専門教育科目					

下線…卒業必修科目 ●…社会福祉士指定科目 ▲…精神保健福祉士指定科目 ◆…スクール（学校）ソーシャルワーク指定科目 *…総合人間社会コース科目

社会福祉コース カリキュラムマップ

	授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考	DP1	DP2	DP3	DP4
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次					
基幹科目	社会福祉学概論Ⅰ	2		講義	2					○			
	社会福祉学概論Ⅱ	2		講義	2					○			
	社会保障論Ⅰ		2	講義	2					○			
	社会保障論Ⅱ		2	講義	2					○			
	地域福祉論Ⅰ		2	講義		2				○			
	地域福祉論Ⅱ		2	講義			2			○			
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		講義	2					○			
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2		講義	2					○			
	ソーシャルワークの理論と方法A		2	講義		2				○			
	ソーシャルワークの理論と方法B		2	講義		2				○			
	ソーシャルワークの理論と方法C		2	講義		2				○			
	ソーシャルワークの理論と方法D		2	講義			2			○			
社会福祉学演習	2		演習			2				○	○	○	
卒業論文	6		演習				6			○	○	○	
社会福祉専門科目	高齢者福祉論		2	講義		2				○			
	介護福祉論		2	講義		2				○			
	障害者福祉論		2	講義		2				○			
	子ども家庭福祉論A		2	講義		2				○			
	子ども家庭福祉論B		2	講義			2			○			
	公的扶助論		2	講義		2				○			
	社会福祉調査法		2	講義		2				○			
	ソーシャルワーク演習A		1	演習	1						○	○	
	ソーシャルワーク演習B		2	演習		2					○	○	
	ソーシャルワーク演習C		1	演習			1				○	○	
	ソーシャルワーク演習D		1	演習			1				○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2	演習		2					○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		1	演習			1				○	○	
	ソーシャルワーク実習A		2	実習		2					○		○
	ソーシャルワーク実習B		4	実習			4				○		○
	福祉経営論		2	講義			2			○			
	保健医療論		2	講義		2				○			
	権利擁護と成年後見制度		2	講義			2			○			
	更生保護		2	講義			2			○			
	医療ソーシャルワーク論		2	講義			2			○			
	福祉住環境論		2	講義			2			○			
	介護技術演習		1	演習			1				○	○	
手話		1	演習	1						○	○		
医学概論		2	講義	2					○				
福祉専門職特講A		2	講義			2			○				
福祉専門職特講B		2	講義				2		○				
精神保健福祉専門科目	精神保健福祉の原理Ⅰ		2	講義		2				○			
	精神保健福祉の原理Ⅱ		2	講義		2				○			
	ソーシャルワークの理論と方法E		2	講義			2			○			
	ソーシャルワークの理論と方法F		2	講義			2			○			
	精神障害リハビリテーション論		2	講義			2			○			
	精神保健福祉制度論		2	講義			2			○			
	精神保健福祉援助演習		4	演習			4		3年前期～4年後期		○	○	
	精神保健福祉援助実習指導		3	演習			3		3年前期～4年後期		○	○	
精神保健福祉援助実習		5	実習			5		3年後期～4年後期		○		○	

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考	DP1	DP2	DP3	DP4
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次					
門科目 （精神保健福祉専）		2	講義		2			人間形成学科の精神保健学と共通	○			
		2	講義		2				○			
		2	講義			2			○			
		2	講義			2			○			
学校ソーシャルワーク専門科目	学校ソーシャルワーク論	2	講義			2			○			
	学校ソーシャルワーク演習	2	演習				2	3年後期～4年前期		○	○	
	学校ソーシャルワーク実習指導	2	演習				2	3年後期～4年前期		○	○	
	学校ソーシャルワーク実習	2	実習				2			○		○
	発達心理学Ⅰ-A	2	講義	2					○			
	教育学概論B	2	講義	2					○			
	教育社会学	2	講義			2			○			
	教育制度論	2	講義			2			○			
	教育相談	2	講義				2		○			
生徒指導論B	2	講義				2		○				
関連科目	倫理学	2	講義		2						○	
	地方自治論	2	講義			2			○		○	○
	仕事の経済学	2	講義		2				○	○		
	暮らしの経済学	2	講義		2				○	○		
	現代社会論A（ジェンダー・世代）	2	講義		2				○			
	現代社会論B（情報社会論）	2	講義		2				○		○	
	福祉社会学	2	講義			2			○	○		
	地域社会学	2	講義	2					○	○		
	環境と災害の社会学	2	講義			2			○	○		
	コミュニティ論	2	講義		2				○	○	○	○
	NPO論	2	講義			2			○		○	○
	発達心理学Ⅱ	2	講義	2					○			
	老年心理学	2	講義			2			○			
	社会病理学	2	講義		2				○		○	
	社会心理学	2	講義	2					○			
	データ処理とデータ解析Ⅰ	1	演習			1		*	○	○	○	
	データ処理とデータ解析Ⅱ	1	演習			1		*	○	○	○	
	家族社会学A	2	講義		2				○	○	○	
	家族社会学B	2	講義		2				○	○	○	
	生涯教育論	2	講義		2				○			
	社会教育論	2	講義		2				○			
	人格心理学	2	講義	2					○			
	対人心理学	2	講義	2					○			
	情報数学	2	講義		2			*	○			
	Webデザイン演習	1	演習		1			*		○		
	プログラミング概論	2	講義		2			*	○			
	データベース論	2	講義		2			*	○			
	マルチメディア論	2	講義		2			*	○			
	情報ネットワーク論	2	講義		2			*	○			
	情報ネットワーク演習	1	演習		1			*		○		
	プログラミング演習	1	演習			1		*		○		
	情報検索システム論	2	講義			2		*	○			
地理情報システム論	2	講義			2		*	○				
問題解決演習	1	演習		1			*		○			
人的資源管理論	2	講義		2			*	○				
キャリア論	2	講義			2		*	○				
組織マネジメント	2	講義			2		*	○				
ビジネス倫理	2	講義			2		*	○				
個人情報法制	2	講義			2		*	○				